

概要版【生徒指導】

生徒理解に根ざした生徒指導の充実に向けた生徒指導主事としての役割

ー協働支援体制の構築と豊かな人間関係づくりにつながる授業実践を通してー

令和2年度 前橋特別研修研究員
前橋市立大胡中学校 小野里 聡

研究の目標

生徒指導主事として、個別指導と集団指導の2つの側面から手立てを講じ、生徒指導の一層の充実をめざしました。

☆手立て1☆
協働支援体制の構築

個々の生徒に応じたきめ細かな支援をしたい！



【個別の課題】

- ・不登校生徒の増加
- ・生徒が抱える課題の多様化

【集団の課題】

- ・コロナ禍でストレスの増加
- ・学校生活への様々な制限

ストレスをためこまないで発散したり、豊かな人間関係を築いたりできるような集団にしたい！

☆手立て2☆
豊かな人間関係づくりにつながる授業実践

手立て1 協働支援体制の構築

- 【状況把握】 アセスメントシートの作成
 - 【支援検討】 各部会で支援方針と役割分担の検討
 - 【支援実施】 方針と分担に基づいて支援
- このプロセスを繰り返しながら個別指導

【状況把握】

～アセスメントシート～

- 担任、副担任、部活動顧問等が生徒の様子をアセスメントシートに記入
- 生徒を見取る観点を全体で共有



大胡中学校アセスメントシート		記録作成日	年	月	日 ()	
フリガナ	性別	生年月日	20	年	月	日 () (歳)
氏名	身長	体重	学年	担任		
住所	cm	kg	年	組		
<input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 両親 <input type="checkbox"/> 母子 <input type="checkbox"/> 父子 <input type="checkbox"/> 養父母 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> きょうだい関係 () 家族構成 <input type="checkbox"/> 単独世帯 <input type="checkbox"/> 二世帯世帯 <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 子育ての状況 <input type="checkbox"/> 虐待(身体・精神・ネグレクト)・ <input type="checkbox"/> 過干渉 <input type="checkbox"/> その他 () 保護者の協力度 <input type="checkbox"/> 取れない <input type="checkbox"/> 取りにくい <input type="checkbox"/> 普通/協力的 <input type="checkbox"/> その他 () 家族の不登校や精神疾患歴 <input type="checkbox"/> 保護者 () <input type="checkbox"/> きょうだい () <input type="checkbox"/> 祖父母 () <input type="checkbox"/> その他の特記事項						

SCやSSWの助言をもとに作成

3つのステップを繰り返していく...



【支援検討】

～各部会での検討～

- 生徒指導部会、教育相談部会で、アセスメントシートを共有し、生徒指導関係職員(SC、SSW、SA、ODS、生徒指導嘱託員)を交えていつ、どこで、誰が、何をするかを検討
- 生徒指導主事が養護教諭や生徒指導関係職員から情報を集め検討することも

【支援実施】 ～実際に行った支援例～

【対象】 4月より欠席しがちな生徒A

【支援内容】

- ①担任から関係職員(SA・ODS・生徒指導嘱託員)を生徒・保護者へ紹介
- ②SCとの面談(アセスメントシートによる分析に基づいて)
- ③具体的な役割分担による支援
(担任:登校を促す、SA・生徒指導嘱託員:本人の思いを受容)



①自分を大切にしよう
～こころのSOSの出し方・受け止め方～
(群馬県こころの健康センター発行)

生徒の実態を踏まえ、第2学年の学級活動において、2つの授業を提案しました。その後、他学年にも実践を紹介しました。



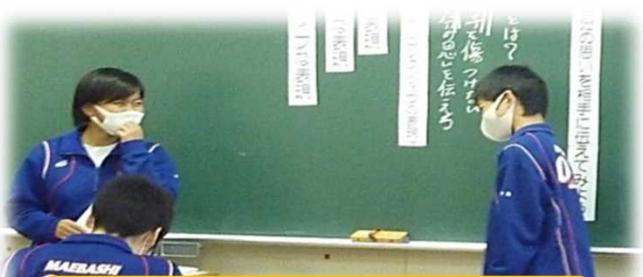
ストレスの原因や解消法を考えながら、その対処方法を自己決定する授業



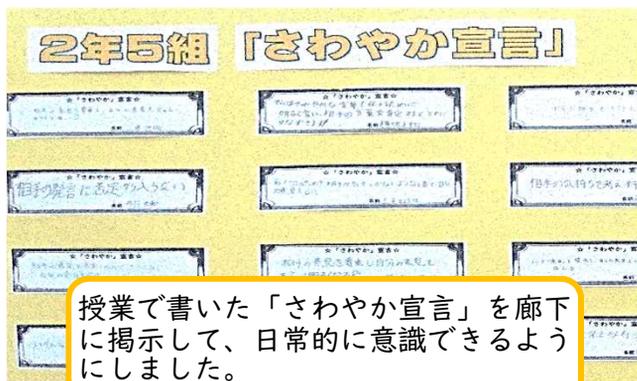
○他の人もストレスを抱えていることが分かり少し安心した。
○色々なストレスの対処法を知ったので、自分なりに対処してみたい。
(生徒の感想より)

②さわやかに表現しよう (アサーショントレーニング)

相手も自分も大切にしたい話し方について考える「アサーショントレーニング」



ロールプレイや板書を活用した意見交流を通して、アサーティブな話し方について考え、「さわやか宣言」を書きました。



授業で書いた「さわやか宣言」を廊下に掲示して、日常的に意識できるようにしました。

学活で取り組んでいます

～さわやかに自分の思いを相手に伝えよう～

友達と話していて、相手と意見が違うとき、相手の頼みを断りたいとき、自分だったらどんなふうに言うでしょうか。「自分の思いを聞いてほしいけど、わがままだと思われて嫌われたらいいやだな。だったら自分が我慢してしまう」…では自分の思いはどこへ行ってしまうのでしょうか?「こんな頼みは聞きたくないよ、二度と頼まれないようにはっきり断ろう」…冷たく断れば頼みは聞かなくてすむけれど、相手は傷つくかもしれないし、関係が悪くなるかも。

そんなときどうしたらいいのかについて考える授業に取り組みました。一人一人の「さわやか宣言」が、各クラスの廊下に掲示されていますので、三者面談の折にぜひご覧になってください。また、ご家庭でも話題に取り上げていただければ幸いです。



学年通信で保護者にも授業内容や意図を発信してもらいました。



部活のみんなで「こうしてみよう」「私はこうした方が良いと思う」と話し合いました。その結果みんなの意見を1つにまとめることができました。
(生徒の生活記録より)

成果

- ◎アセスメントシートを作成し、情報を集約したことによって、支援の検討を円滑に行うことができ、学校の方針や教職員の役割分担が明確になった。
⇒ 職員による生徒への効果的な関わりが増え、生徒と教職員の信頼関係が築けた事例もあった。
- ◎豊かな人間関係づくりを目指した授業を実践したことで、授業や部活動など、様々な学校生活の場面で自分も相手も大切にしたい言葉を使おうとする生徒の意識が高まった。

課題

- ◇個に応じたきめ細かな指導のさらなる充実に向けて、生徒指導主事として、協働支援体制の推進をさらに図っていきたい。
- ◇集団指導として、校内研修部と連携した、豊かな人間関係づくりにつながる授業を、意図的・系統的に行っていく。